

オルゴールに音楽を 閉じ込めた

昔日の思いが知りたい

名村義人・嘉世子「オルゴールの小さな博物館 東京」

「僕の写真は助弁してください。収集家と思われぬのがいやなんです」と名村さん。物に執着心はなく、箱の中に音を閉じ込めたという人間の情熱が不思議で、どうしてだろうと思ううちにこんな集まってしまったといひます。ごはご案内しましょう」と、まずはストリート・オルガンの部屋。ハンドルを回すと懐かしいメロディーが流れます。これで一八八〇年頃のもです。どうぞ、どれて

左一真ん中が美さまの嘉世子さん。右隣はスタッフの高田さん、小島さん。下二右はドイツ・オルゴール、カリオカ60号、ドイツ製。左はスイス製で、1ペニー硬貨を入れて音を出す、レストランなどに置かれた。左下二室あるうちの1室、これはストリート・オルガンの部屋。



「えっ、さわっていいんですか」と思わずささき返すと、「オルゴールは音の出るものですから、その音を聴かなきゃ始まらないでしょう。大体、この博物館ってのが駄目なんです。作り手が命をかけて作り出したものを、傷むなんていって棚とかガラスのケースにしまい込むなんて、失礼ですよ。最初は本で眺める程度の興味だったんですけど、「天空から響くとき音色」二夢のような澄んだ「ハーモニ」という美辞麗句に、実物の音を聴いてみたいという思いが募り、ある日パートで売りに出された一台の大型オルゴールに、朝の来るのもどかしく飛んでいったといひます。以来、思い入れは僕以上という奥さまとともに集めたオルゴールが八〇台、「一八〇〇年代から一九〇〇年代にかけて盛んに作られ、精緻な機械だと思ったら、ラジオと蓄音器の出現であつたという間に消えてしまふ。それを考えるとますます、そこに費やされたばかりたエネルギーがおもしろくなつちやうなんです。オルゴール好きのためにときにはテーマを決めて鑑賞会を開いたり、音を吹き込んだカセットを用意したりもしています。

●オルゴールの小さな博物館／東京都文京区白台二丁目一四一（四）03-39411008（開館は土曜（二時一五時）七時、日曜（二時一四時）一六時）の二階予約予約は03-39414508（大館五〇〇円）



周辺ミニ博物館ガイド

- 武蔵野音楽大学・楽器博物館 世帯中の民族楽器や、由緒あるクラシック楽器が並ぶ。水曜（一）時、五時の公開鑑賞。東京都練馬区羽根二丁目二二（三）03-35911111
- 弥生美術館 高島敏實、竹久夢二など、大正初期初期の洋装画家の作品を中心、華やかな作品の九五〇を所蔵する。東京都文京区湯島一四三（三）03-38120107
- 下町風情資料館 懐かしい下町がそのまま再現される。東京都台東区上野公園一（一）03-38231451
- 複製楽器のための手で作るギタラー・TOM 名物の名とおり、複製楽器が魅惑する美術館に訪れる場所。東京都渋谷区松濤二丁目一（一）03-34618102

